

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370900320		
法人名	社会福祉法人 旭川荘		
事業所名	グループホーム やすらぎ荘		
所在地	岡山県高梁市備中町布賀3513-2		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	hsaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=3370900320-00&Pref
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成24年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設し7年が経過した。今年の7月に1名の入退所者はあったが、それまでの入退所者は2年間なく、利用者さんもなじみの人間関係の中で穏やかに過ごされている。静かな環境の中で景色を眺め、四季を感じることができる。徒歩10分ほどの所に畑があり、利用者さんが若い頃からして来られた苗付けから収穫を一緒に行い、近くには散歩コースも多く体力維持に役立っている。職員も30代～70代まで年齢層も幅広く、利用者さんにとって孫・娘・嫁・息子・同世代的な役割ができています。利用者さんが職員に「してもらっている」ではなく、職員が「利用者さんに教えていただく」「お互い様」という雰囲気作りを心がけている。ご家族や地域の方と一緒に日帰り旅行や夕涼み会などの行事だけではなく、個別の外食・外食の機会も増やし、個別のニーズにこたえられる様に職員一同努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの利用者に対するケア・サービス提供の面では職員の優しさや丁寧さ、語りかける自然な言葉掛け、家族のような雰囲気等は何ら改善を要する所は何もない。又、共用スペースや個人の生活の場としてのハード面も古い建物ではあるけれど機能も充実しており、しっかりした生活機能を満たすものだと思う。周辺の環境も利用者にとっては住み慣れた場所である。総合的に利用者にとってはとても良い境遇ではないかと思う。
一方でホームを運営するマネージメント能力は、設立以来7年目になるが、2代目の現管理者はグループホームの本質を良く理解しており、利用者一人の人間として捉えて、ホームでの生活を大切に考え、家族と共に幸せを求めている。そして職員の人材育成に努めている。母体の法人の支援も有り、理想的なマネージメントが出来ていると思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初に旭川荘本部の基本理念と方針をうけ職員で話し合い作成した「基本理念」をいつでも再確認できる様、事務所と研修室に掲示している。また、新人職員への研修でも、必ず伝えている。	職員はホーム内や家族・地域に関わる業務の分担をしている。又、利用者に対して一人ひとりの生活を支援する分担をしている。これらの分担は利用者一人ひとりの意志を知ることや生活の質の向上につながる要素を一番知る事が出来る。つまり、このホームの理念の根源である要素をしっかりと叶えている。	もう7年も経過したホームである。この自己評価はホームのすべき業務やケア・サービスの質の向上に必要な要件が記されており、その成果をアセスメントしてみると、この自己評価をする価値も理解されるだろうと思う。介護計画の為のアセスメントと同じようにホームの運営の為のアセスメントをして欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の方と交流を図っている。また、夕涼み会参加の御礼・年末のお歳暮に利用者さん手作りの刺し子を配ることは継続でき、地域の方も楽しみにして下さっている。	年末には一軒一軒の家や社協や公的な事務所に挨拶に回っている。近所の人からは「野菜が採れたから取りにおいで」と声が掛かる。夕涼み会には50人位の人が参加して楽しくんでくれる。地域の中のホームに溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市主催の認知症研修会にアドバイザーとして参加したり、夕涼み会でGHでの取り組みや認知症ケアについてご家族や地域の方に講話した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催できている。ご家族の負担にならない様に毎回違うご家族の方に参加を呼びかけているが、仕事の都合で欠席の方もおられる。検討が必要な事は職員会議で報告し、今後も貴重な意見をサービス向上につなげていきたい。(22・目標計画実施)	運営推進会議を有効に開催した結果、隔年で外部評価を免除されている。高梁市の職員から他のホームでの運営推進会議の様子も教えてくれて参考になっている。昨年から家族が多く出席するよう家族会と一緒にするという事で家族に出席を促してきた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の利用状況や待機人数などを伝えている。運営推進会議だけではなく、電話やメールで情報交換する事もある。	包括支援センターも連絡を密にしてくれている。何か困ったこと、利用者や家族の事で何時でも相談できる間柄になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	荘内は常に出入り自由にしており、施錠は夜間のみである。センサー等設置していないため、外出しような気配を察知したらさりげなく声をかけたり、本人の思いを聞きながら一緒に歩くようにしている。勉強会で身体拘束廃止についても、冊子を配布し研修した。	身体拘束したり、虐待しなければならない要素はこのホームの立地や施設構造面では考えておかなければならない事を気付かされない。職員とも我が子、我が親の関係が誰よりも何処よりも安心して見ていける。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で勉強会を行うが、毎回ではない。外部でも研修会があれば参加したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度利用中の方が2人おられるが、制度について全体で学ぶ機会は設けていない。分からない事があれば、市の担当者にもその都度確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等は細かい内容を確認しながら読み上げ同意をもらうようにし、疑問点には答えている。また、分からなかったり困ることは遠慮なくその都度言っていたく様をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に歩みの箱(ご意見箱)を設置しているが利用がなく、ご家族には用紙を配布した。意見や苦情がないか面会時に声をかけたり電話で聞いているが、検討事項があれば職員間で話し合いサービスの質の向上につなげたい。	家族は遠くに居る人でも2ヶ月に1回は訪問する。他に電話で話しているので、お互いの気持は通じている。職員は利用者を個別に担当していて、毎月利用者の様子を手紙で伝えており、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年より職員の個別面接を始めた。顧問・管理者が職員一人ひとりの介護に対する思い、個々の目標、日々の仕事上の悩み等を聞き、解決策を探した。職員の思いを知る良い機会となったので、今後も続けたい。	職員は、献立作成、衛生関係、レクや利用者の作業、ホームでの掲示物、省エネ、備品、畑や花壇の整備、美化、オシメ発注等の業務の責任分担を決めている。利用者と職員で対になってホームで野生活をしっかりと見つめている。法人の老健施設と実習交流もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士取得後の時給アップあり。勤務希望にはできるだけ応じ、私用、自分や家族の病気等の時は有給休暇がとれる様にしている。職員同士の間関係や悩みなども把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルや施設内での役割(係り等)、学びたい事に応じ、年に1回以上は外部研修に参加する機会を設けている。研修後は復命書を回覧・職員会議で報告し、共有している。 (22・目標計画実施)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加入した。支部や近隣の研修には多くの職員が参加できるようにしている。管理者は市内のGHとも定期的に会議を開催し、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接では、ご家族だけではなく本人にも会って話をしている。ご家族の思い・ご本人の思いや要望をできるだけ把握し、安心して利用していただける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていること、求めているものを理解するように努め、事業所としてどのような対応ができるか相談している。遠慮なく何でも言ってもらえる様な関係が築けるように努めていきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合は可能な限り柔軟な対応を行い、緊急性など場合によっては他施設の申し込み等をすすめる場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しお互いが支えあい、人生の先輩として敬い、生活の中で多くの事を学ばせていただき、共に共感し合える関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態をこまめに報告・相談する事とともに、担当者が記入した「近況報告」を毎月送付している。。行事や運営推進会議に参加していただき、利用者さんと過ごす機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理美容院には昔から利用している馴染みの店へ出かけている。利用者さんの自宅へ季節の物を収穫しに行ける様、ご家族の了解を得て支援している。	この地域に住んでいる人ばかりなので、お互いの気持も分かり易い。それ以上にこのホームの中で利用者同士、職員共「お互い様精神」で付き合っ、お互い同士として認め合っ、心が通じている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人になりたい時や一緒にいたい時の雰囲気を感じ、思い思いの時間を過ごせる様に支援している。レクリエーション・作業等に関わりを持ち親睦を深め、お互いを支え合える関係を築る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に変わられた後も、面会に行く事もある。退所されたご家族へのサポートは少ないが、事業所へは必要に応じて情報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から把握に努めている。また、ご家族からも話を聞いて、得た情報は共有し、ケアに生かしている。	利用者と職員は日常の生活の中でざっくばらんに話したり、一緒に仕事をしている事が多いので、日頃の思いや気持はしっかり通じ合っている。3人一組で外食をする機会を作って年に3回は行事として外食に行くので、心の中を開いて話す事ができるだろう。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や面会時に本人やご家族からも話を聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを尊重しながら、日々のケアに努めている。変化があれば申し送りや記録にて情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できる限り本人やご家族の要望を取り入れるようにしている。モニタリングは職員会議やその都度他のスタッフの意見を聞いている。 (22・目標計画実施)	アセスメントでしっかりと利用者の状態を把握し、解決すべき課題を職員で話し合っって軽重をつけて、解決すべき内容と方法をケアプランで明確にして、職員間で共有し、日常業務で実行できるシステムが構築できている。会議には顧問の看護師も出席してくれる。	ケアプランの為のアセスメントを作る過程を職員の質の向上及び利用者への関心度高めるツールにして欲しい。一般的に見た運営の評価が最高である故に、アセスメントの活用を提案しておきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に記載し、重要な申し送りは他に連絡ノートや介護管理日誌に記載している。業務開始前にこれらの記録に目を通すように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り柔軟な対応をしたいと考えており、そのためにもニーズの把握やご家族との情報交換を蜜に行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーに民生委員・町内会長を位置づけている。地域の方とも良好な関係が築けているが、徐々に地域の方の面会(訪問)が減ってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医療機関への受診はスタッフが行き、特変や内服薬の変更あれば、その都度ご家族に報告している。それ以外の病院への受診は病状の把握のためにも原則ご家族に同行していただくようにしている。	協力医は町の診療所や法人の運営する老健と備中診療所医師が利用者全員のかかりつけ医である。通院には家族と共にホームからも立ち合って詳しい内容を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算を図っており、週1回の訪問時に利用者さんやスタッフの相談にのってもらい、アドバイスしてもらっている。週末には協力医療機関から特変者の聞き取りがあり、もしもの時の土日の受診がスムーズに行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院した際は適宜様子をうかがい、退院に向けて病院関係者との情報交換を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診結果等変わった事があれば、その都度ご家族に報告している。終末期のあり方については、本人・ご家族・医師・看護師・スタッフと共に必要に応じて協議し、方向づけたい。	家族ともよく話し合っているが、重度化により医療依存度が高くなってホームでの入浴や排泄の対応が難しくなれば、法人内老健の利用も考えていかねばならない。入浴、排泄のケアに一人の職員で対応できなくなればケアの限界と見做し、ターミナルケアは考えていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度、数名が普通救命救急講習を受講予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練(昼・夜想定)、崩土を想定した避難訓練を行っている。災害時の備蓄食品等も準備している。地域との協力体制としては、近所の方をホットラインに登録している。	建物の構造や消火設備の充実からすると火際に対する消火又は避難の訓練や整備は出来ている。今後は地震発生時に利用者の安全を守るために何をしなければならぬかを検証していく必要があるだろう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は利用者さんのプライベートスペースである事を尊重し、ノックや声をかけて入室している。トイレや入浴介助時には、声かけや対応に十分気をつける様に心がけている。	利用者のプライバシー保護に対応する内容については管理者及び職員は良く認識しているため、問題ないと確信した。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんが帰宅願望を訴えられる時には、本人の意向を聞き、気持ちに沿った支援ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など基本的な一日の流れは決まっているが、時間を区切った過ごし方は決まっていない。できるだけ利用者さんがしたい事、行きたい所を聞き、希望に沿える様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みやこだわりを大切に、可能な範囲での支援をしている。馴染みの美容院に行ったり、希望者には出張サービスも利用している。衣服・化粧品も好みのものを一緒に買いに行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー案・買い物・調理・片付け等個々の興味や能力が生かせるように努めている。近所の畑に野菜を採りに行ったりして、新鮮な物を食べる事ができている。職員も一緒に食事をしながら、さりげない見守りや会話をして、明るいムードを作るよう、心がけている。	食事を作ること、食べること、後片付けをすること、食材を買い求めること等、食事に関する事は全く問題にする事はなく、利用者職員は最も楽しい生活機能だと思う。一番は家庭で食事のペースを再現する為、特に夕食を19時～19時30分にさせてあげる。理念に叶う最高点になるだろう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や症状の把握に努め、食事量の調整や水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアができる様、声かけや見守り介助をしている。歯ブラシ・コップ等も定期的に消毒している。自歯が残っている形については、月に1回以上ブラッシングのため、歯科受診や往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用と個々の状態に合わせた声かけや誘導を行っている。パットや紙パンツも状態にあった物を選び、その都度検討もしている。	このホームに来て、リハビリパンツやパット使用の人が布パンツになったり、昼だけ紙パットが外せた人も居る。人間にとって排泄をトイレで出来ることは一番の幸せだと思う。これも理念に叶うケアと言えるだろう。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の検討と共に調理の工夫も行っている。日々の活動の中に散歩や体操なども取り入れ、水分補給にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や入浴方法など、個々の状態や希望を取り入れている。時間的にゆとりをもち、落ち着いて入浴できるように工夫している。	2日に1回は入浴する。急に寒い時には嫌がる人も居るそうだが、何とか入浴してもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望の時間に安心して入眠できるように働きかけている。不眠の訴えがある時には医師の指示の元、眠剤を使用する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬表をまとめて1冊にし、誤薬がないように2重にチェックしている。変更があれば分かりやすく記載し、個別の記録にもアンダーラインを引いている。落薬を防ぐためにも、口に入れて確実に飲み込むまで見守りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野に応じて設定を心がけているが、スタッフの人数や配置状況によっては生かされていない場合もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩したり日光浴も楽しんでいる。家族同伴の日帰り旅行や地域の方とのふれあい活動も重点を置いておこなっている。	旧備中町の造った立派な福祉ゾーンの中にあり、公園風になっているので、日常の散歩は何時でもできる。食材を買いに高梁の街まで出掛けるので利用者も同行する。季節的な外食、外食、日帰り旅行、敬老会外食、ぶどう狩り等の外出や備中町ふるさと祭り等、出掛ける機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に防犯のためにもお小遣いは事務所で管理しているが、外出や行事の際には利用者さんの希望や力に応じて自ら支払える様にサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を使用できる。外線も、まず本人に出る意思があるかを確認して電話を代わっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下から見て居室が分かりやすいように表札をつけ、本人やご家族の写真を貼っている。壁には季節に応じた飾りつけや、入所者さんの作品を掲示している。リビングはソファがあり、独立している。また、小さな和室やソファがあり、入所者やスタッフが集い談笑できる。水槽もあり生き物と関わりのある家庭的な空間になる様に心がけている。一直線に長い廊下は、歩行訓練や運動の場でもある。	年間を通じて退所が出ないと言う事は、一番健全な生活がこのホームの共用空間および外部空間の良さにあり、色々なイベントや見物に出掛け、外食もしている境遇によって、理念にある自由・健康・安全な生活が出来ている成果だと思う。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設の外にもベンチ等を数箇所設置している。施設内でも談話室や三畳間、玄関等ゆったりと過ごせるスペースがあり、自由に思い思いの場所で過ごしていただける様に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、長年自宅を使い慣れた家具や衣服が持ち込める様になっている。	居室の良さも共用空間と同じで、利用者が安心して自宅でゆっくり休み、寝られることだろう。寝るだけでなく、自らの科学的、文化的な生活が維持していける事も実績として上げても良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の表札は、見えやすい角度に設置している。ご家族との写真も掲示し、自室が分かりやすいようにしている。残存能力が生かせるように、物の設置に配慮した環境整備を行っている。		